

令和 6 (2024) 年度

学校推薦型選抜 (人間健康科学部 看護学科) 試験問題

# 小論文

## 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないで下さい。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入して下さい。
- 3 解答には鉛筆かシャープペンシルを使用して下さい。
- 4 問題は全部で3ページ、解答用紙は全部で3枚あります。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 試験終了後、問題冊子も回収します。
- 7 何か伝えたいことがあるときは挙手して下さい。

第1問 認知症当事者が書いた次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

生活のいろいろな場面で、家族は心配そうに「大丈夫？」とか「頑張らなさい」と言います。トイレに行こうと席を立つと「どこ行くの？ 大丈夫？」とトイレまでついてきたりとか、常に「頑張ろうね」と励まされたりします。トイレに行くたびに「大丈夫？」と訊かれたり、忘れてたり失敗するたびに「頑張ろうね」と言われることが続くと、自分がダメな人になったと感じ不安になります。

おれんじドア（当事者が不安を持った当事者の相談にのる場）にいと、最初は不安そうにやってきた当事者が、当事者同士で、これからやりたいこと、例えば山登りや旅行、買い物などといったワクワクすることや、生活で工夫していることを話すことで気持ちが楽になり、不安を持っているのは自分一人だけではないのだと安心し笑顔で話をしてくれるようになります。

しかし、せっかく当事者同士の話し合いで笑顔になっても、家族のもとに戻ると「大丈夫だった？ 頑張ろうね」と声をかけられ、下を向いてしまう場面をよく見てきました。

当事者は家族に対して病気になって申し訳ないという気持ちもあるから、家族の言うことをできるだけ聞こうとし、「大丈夫だった？ 頑張ろうね」と言われた時に、どんなに不本意でも、家族が困らないように自分の意思を押し殺して下を向いて黙ってしまうのです。伝えることを仕方なくあきらめているのです。そして、自分の意思を抑え込み、あきらめてしまった当事者は、「家族がいるから困っていない」と言うようになります。

普通に当事者同士で話をしているだけなのに、「大丈夫だった？」「頑張ろうね」と家族が声をかけるのは、「私がいなくて大丈夫だった？」「何も問題がなかった？」「きちんと話できました？」という心配からくる言葉だと思います。

でも、私たちは何も悪いことをしているわけではなく、普通に話をしているだけなのです。「楽しそうだったね、また来ようね」と言ってもらえたら、当事者も下を向くことはなかったと思います。

よく「頑張らなさい」と励まされますが、すでに当事者は頑張っているのです。むしろ安心できる言葉をかけてくれたほうがうれしいです。例えば、「私たちが覚えているから、忘れたら気軽に聞いてね」というようなポジティブな言葉をかけてくれたら当事者も気持ちが楽になるでしょう。

当事者は家族からの声かけでポジティブにもネガティブにもなります。家族の存在は大きいからこそ、もっとポジティブな言葉をかけて欲しいのです。

当事者同士や、友達からの「大丈夫だよ」という言葉は励みになります。言い方次第だと思うのです。「大丈夫だよ」と明るく言われるのと「大丈夫？」と疑問形で心配そうに言われるのでは大きく意味が違ってきます。

家族は、「この人何もできなくなって」と言いながら、何でも先回りしてしまうことがよくあります。「家族がいるから困らない」という状況は当事者にとって、良い状況なのでし

ようか？ 誰でも「何でも先回りでもらえる」と何もできなくなっていくます。そうすると、当事者は「ありがとう」と常に言うようになり、何でも家族に任せるようになりま

す。

そうすると、家族がいないと本当に何もできなくなってしまう。その上、「ありがとう」という言葉を家族や支援者が素直に受け止めてしまうので、さらに良かれと思って何でもやっ

てしまい、その人の生活を意図せずに支配してしまうのです。

「ありがとう」の言葉の裏には当事者の「申し訳ない」という気持ちがあるのです。

「ありがとう」と言ってこなかった人が、認知症と診断された後に頻繁に「ありがとう」と言うようになった時は、「自分がやってきたことまで、させてしまって申し訳ない」と感じているという背景があります。

本当に感謝している時に「ありがとう」を言うのは勇気がいります。照れくさい言葉だからこそ、たまにしか言わないのです。

例えば、家族に申し訳ない、負担をかけさせたくないと思って自分で動いたところ、失敗してしまいさらに迷惑をかけてしまった経験があり、その時に「余計なことしないで」と怒られて「自信がなくなったので何もしなくなった」と言っていた当事者がいました。当事者も家族に感謝をしていて、これ以上負担をかけさせたくないから動いているのです。家族も「ありがとう」と言ってくれたらうれしいです。

困りごとはたくさんありますが、困らないように先回りをして何でもやってもらえたら困らなくなります。しかし、できることまでやってもらえるようになると「自分で決めて行動する、自由が奪われている」ということに当事者自身が気づかなくなってしまう。家族が目の前からいなくなるだけで不安になり探してしまう理由がここにあります。

これは認知症の症状ではなく、環境から作り出された「依存」という状態です。家族も「私がいないと何もできない、不安で目が離せない、常に一緒にいることが当たり前」になってしまい、共依存状態になってしまうのです。このような状態を支援者が見て、「仲の良いご夫婦でいいですね」「幸せですね」「頑張っていますね」と褒めることがあります。そうすると家族も褒められることでさらに頑張ってしまう、結局、疲弊してしまうのではないのでしょうか。

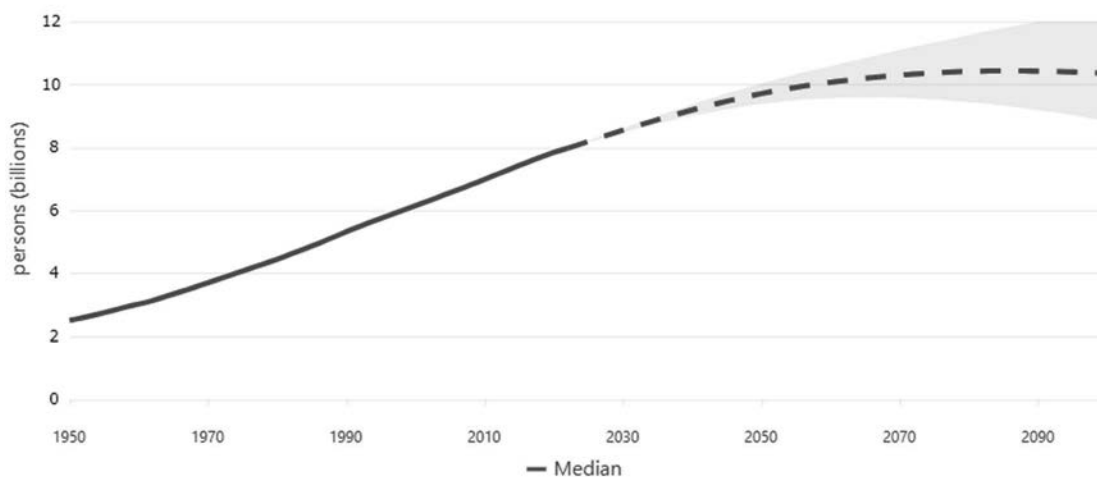
出典：丹野智文「認知症の私から見える社会」講談社，2021年，84－88頁

設問1 筆者が伝えたいことは何か、300字以内で要約しなさい。

設問2 当事者の気持ちを踏まえ、日常生活の中で、あなたはどんな配慮をしたいと考えるか、800字以内で述べなさい。

第2問 次の英文を読んで、下記の設問に答えなさい。

Global population size: estimates, 1950-2021, and medium projection with 95 per cent prediction intervals, 2022-2050



The world's population is projected to reach 8 billion on 15 November 2022 from an estimated 2.5 billion people in 1950. It took around 37 years since 1950 for human numbers to double, surpassing 5 billion inhabitants in 1987.

Thereafter, it is estimated that more than 70 years will be required for the global population to double again. The latest projections by the United Nations suggest that the global population could grow to around 8.5 billion in 2030, 9.7 billion in 2050 and 10.4 billion in 2100. More than half of the projected increase in the global population between 2022 and 2050 is expected to be concentrated in just eight countries: the Democratic Republic of the Congo, Egypt, Ethiopia, India, Nigeria, Pakistan, the Philippines and the United Republic of Tanzania.

(注) : projections 「予測」 surpassing 「上回る」 inhabitants 「住民」  
 (“UN Population Division Data Portal” <https://population.un.org/dataportal/home> より)

設問1 本文に書かれている英文やグラフから読み取れることを日本語で4つ書きなさい。

設問2 本文から考えられる問題点を一つ挙げて、その解決方法についてあなたの考えを400字以内で書きなさい。